

わかくさ

社会福祉法人栄光会

児童養護施設 若草園

〒787-0155 高知県四万十市下田 2211

Tel (0880) 33-0247 Fax (0880) 33-0518

IP フォン 050-3344-8850

ホームページ⇒ <http://wakakusaen.holy.jp/>

発行：福留久美、編集：瀬戸雅弘



7.1 若草園設立

四万十市佐岡にある東山小学校の山手側、薫的神社付近で若草園は産声をあげました。

⇒ ④～⑤ページに特集記事があります。



若草園 満60年



若葉の緑が目にしみる季節となりました。早くも平成29年度が3ヶ月を経過致しました。若草園も事業計画のもと実践的な創意と工夫をこらし、生かすべきは生かし、正すべきは正すことを心がけ、新たな気持ちで発展させる覚悟をしております。

これまで若草園は一法人一施設の小規模法人であり、理事会のみで運営をしてきましたが、平成28年3月の社会福祉法改正により、従前は任意であった「評議員会」がすべての社会福祉法人に「議決機関」として必置されることとなりました。これからも若草園がさまざまなニーズに応え、地域に根ざすために、地域の福祉関係者に評議員として参画いただき、より透明性のある施設運営に心がけていく所存であります。

「若草園創立60年」を迎えました。若草園が中村の佐岡に設置されたのは60年前の1957年(昭和32年)7月のことです。元東山村役場を譲り受けて事業を開始し、9年後には竹島出身の保育の父・佐竹音次郎が設立した鎌倉保育園に経営が移管され29年半、「鎌倉保育園中村支部 若草園」として運営されました。1996年(平成8年)「社会福祉法人栄光会」として独立。初代理事長(廣井康延氏)、第2代理事長(小椋茂昭氏)、第3代理事長(平岡和好)が歴任し、今日に至っております。

若草園の歴史上人物、岡上菊榮、佐竹音次郎を顕彰し、若草園をより一層向上・発展させるよう心新たにしておるところであります。皆様方の更なるご指導とご協力をお願い申し上げます。



理事長 平岡和好



育児相談窓口

児童家庭支援センター
わかくさ

てんわ (0880)

33-0258

24時間

365日無料

児童養護施設「若草園」と児童家庭支援センター「わかくさ」(退所児等アフターケア事業「あおば」を含む)の運営母体である社会福祉法人「栄光会」の役員をご紹介します。

- | | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|
| 理事長

平岡 和好 | 常務理事
施設長

福留 久美 | 理事

山崎 育代 | 理事

本田 三津代 | 理事

宮本 昌博 | 理事

矢野川 研 |
| 監事

山沖 優子 | 監事

山本 博昭 | 評議員(新任)

三好 琴喜 | 評議員(新任)

黒岩 将 | 評議員(新任)

池本 幸子 | 評議員(新任)

植木 俊博 |



役員顔ぶれ

4月に施行された改正福祉法に対応して栄光会の役員体制が変化しました。法的に表現すれば法人役員とは理事と監事のことでありますが、ここでは評議員や施設の第三者委員、後援会も含めて若草園の役員として紹介いたします。役員は地元の学識経験者、地域の福祉関係者などによって構成されております。

評議員は理事を超える人数の定員が求められていますが、はじめて評議員会を設置する小規模法人には経過措置として3年間は4名で可とされています。栄光会では理事の定員を2名減らし、三好さんと黒岩さんが評議員に就任してくださいました。また、梅の木福祉会統括主任の池本さんと下田水戸西地区民生委員の植木さんが新たな顔ぶれとして加わりました。

苦情解決第三者委員は、福祉サービスの質的向上のために社会福祉法人に設置が義務づけられている制度です。

若草園を支える会では監事が石井裕美さんから中村地区民生委員児童委員協議会会長の宮崎さんに交代しました。

このような恵まれた役員さんたちに支えられて、還暦を迎えた若草園の新たな歩みが始まりました。これからもよろしくお願いいたします。

- | | | | |
|--|---|--|---|
| ◇苦情解決第三者委員
相談員

乾 梢 | 相談員

森田 智枝 | 相談員

立石 大 | ◇若草園を支える会
(外部組織、若草園後援会)
会長 林 博
副会長 浜口貞雄
// 野地ちえみ
// 池 啓司
// 黒岩 将
監 事 乾 梢
// 宮崎嘉友
事務局 瀬戸雅弘(若草園職員)
岡崎光子(//) |
|--|---|--|---|

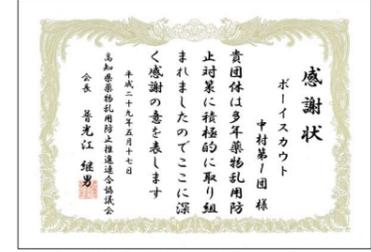
5.27 若草園ガーデンパーティー
こいのぼりが泳ぐ中 395人(内66人は園の職員と子ども)が園庭に集まりたのしみでした。



今年には土佐中村一條太鼓に加えて、フォークシンガーの「がたろう」、カズダンススクールが来て、もりあげて下さいました。また例年ホームセンターマルニがボランティアでヨーヨーつりの屋台を出店してくださっています。



6.9 ベビーのプール開き
近年の学校では秋の行事の関係で2学期がはじまってすぐにプール納めになりますが、ベビーのプールは気温にあわせて開きます。



6.18 薬物乱用防止キャンペーン
今年には宿毛でボーイスカウトの活動として街頭運動を行いました。

5.17 継続的な取り組みが評価され、高知県薬物乱用防止推進協議会より感謝状が贈呈されました。



カブスカウト活動
定期的に地域のボランティアと体を動かす活動に取り組んでいます。



5.24 園内での公文学習
平成9年から公文教育研究所の支援を受けて、園内で公文式学習に取り組んでいます。教室を開くのは水曜日と金曜日で、この日は公文本社からも指導に来て下さいました。



5.24 バックネット完成
平成22年度の遊具整備事業で新しくなったバスケットゴールでしたが、ボールが壁や窓、エアコンにぶつかっていたので、赤い羽根共同募金の助成により設置していただきました。



作文コーナー
児童が学校で書いた作文を紹介します。

カブかつどう
下田小3年 コロリンくん (初夏の篠山)

きょう、おべんとうをもつて、山のぼりに行きました。はじめての山のぼりなのでうきうきしていました。でも、おるとき3かいこけました。つぎはぜったいいきたくないです。こんどいくときは、きよひします。

若草園のボーイスカウト活動は1962(S37)年7月に中村第1団として組織されて開始されました。当時、遊び場が狭く、裏山や川で子ども達が遊び、絶えず危険にさらされている状態でした(30周年記念誌より)⑤ページに写真あり。

ボーイスカウトは1907年にイギリスで発祥しました。野外活動を通して他の人に役立つことが活動の目的です。その翌年、日本にもこの運動が伝わり、現在に至ります。ボーイスカウト活動は年齢に応じてビーバースカウト(小学1年から)、カブスカウト(小学3年から)、ボーイスカウト(小学6年から)など5つの隊に分かれています。若草園でも現在3つの隊を編成して活動にとりくんでいます。



若草園

満60年

若草園 施設長 福留久美



裏の神社の境内で元気に遊ぶ



→当時の水泳の衣装



食前のお祈り



佐岡の回園會遠景
←現在の若草園との位置関係→

1957(S32)～1969(S44)/12年間をすらす



創立60年の歩み

法人の歩みとしては、昭和32年(1957年)7月、(社)会福祉法人「高知慈善協会が若草園として開設し、昭和41年(1966年)(社)鎌倉保育園へと経営を移管されました。30年後、平成8年(1996年)より(社)福栄光会1法人1施設として独立し、現在に至るまで運営されてきました。

この60年間の養育の営みを、開設当初の時代背景から振り返ってみますと、今日とは比べ物にならないほどの不自由さと、不便さの中の共生であったことが伺えます。その後、社会情勢が移り変わるにつれ、児童福祉も変革し、平成7年(1995年)に「養護施設の近未来像Ⅰ」が打ち出された頃より、児童養護施設は大きく変化しようとして模索し始め、平成13年(2001年)に打ち出された「児童養護施設近未来像Ⅱ」には、現在の児童養護施設の在り方が示されていました。平成12年(2000年)に虐待防止法が制定され、当施設も子どもの命を守り、安全・安心を保障する場所であるための事業を園舎の全面改築を機に拡大しました。



若草園に関わりのある歴史上の人物

いま、高知県では「志国高知幕末維新博」が開催されており、若草園は現在に至るまでに先人達のたゆみない努力がありました。

●おかのうえ・きくえ

1867(慶応3)～1947(S22)
坂本龍馬の姪。数奇な運命のりこえ子どもの養護につきし80歳まで現役を貫きました。若草園開設の母体となった高知慈善協会博愛園の初代園母として約40年間務めました。

●さたけ・おとしろう

1864(元治1)～1940(S15)
四万十市竹島出身。日本で初めて子どもの養育に「保育」という言葉を用いたので「保育の父」と呼ばれています。若草園には音次郎が開設した鎌倉保育園の中村支部としての歴史が29年半あります。

●佐竹音次郎



●岡上菊



園庭で水遊び(旧園庭)



いつの時代も子どもの笑顔にかわりはない(旧舎)

平成19年(2007年)、養育を必要とする子どもたち一人一人に丁寧に関わることを、将来、子どもたちが家庭を築くモデルになりたいという志から、小規模家庭的養育に養育方針を変換しました。この養育に踏み切れた要因は、すでに地域の2拠点でグループホーム(小規模ケア)を開設して、長期に渡り運営している実績があったからであります。(昭和58年「1983年」、グループホーム・アドラムの家「現在の平野ホーム」開設。平成16年「2004年」、地域小規模児童養護施設・具同ホーム開設。)同時に、地域福祉、家庭福祉への支援のため児童家庭支援センター設置し、6市町村とのショートステイ事業委託提携や、施設入所後の退園者支援のためのアフターケア事業等を展開しています。また、今年度からは一時保護実施特別委託契約を締結し、要保護児童を受け入れております。

今、私たちがこの地で児童福祉に携わり、60年の歴史を歩んでいますのは、若草園で共に生活をした500人を超える子どもたちの存在と、それを献身的に支えてくださった沢山の先輩方の努力と情熱が、バトンを繋いでくださって、今日の若草園があるからです。そのことに歴史の重みと責任を実感しています。これからも、時代と共に様々に変化する子ども社会に対応できる法人・施設で在りたいと考えます。



『若草園の歴史』



1986(S61)年の機関誌
この後、発行が頓挫して
2002(H14)年から再開され
現在に至る。



児童養護施設
若草園
要覧

運営理念
◆ 敬神愛人の精神を基盤にした教育を通して、児童の心身に健全な成長を促し、心身障害・社会的自立をめざす。
◆ 知識の習得と志願の充実と、進捗予防、防止等に対応し地域福祉に貢献する。

基本方針
◆ 小規模自立支援としての生活の中で、大人から愛される経験を通して心豊かな人間性を育てる。
◆ 豊かな生活環境を創出し、奉仕精神、公民性のある人の育成を図る。
◆ 児童の主体性を尊重し活動を展開することで、自尊心を確立し、他者愛、社会性を育てる。
◆ 関係機関との連携のもと地域の関係者へへの対応、家庭復帰支援のアフターケア、就職推進支援等を行う。

社会福祉法人 栄光会
〒787-0155 高松市東区下田2丁目2211
TEL 0899-33-0247 FAX 0899-33-0818

今年3月に完成した要覧

児童養護施設
若草園要覧

施設要覧
2007(H19)年から
2017(H29)年まで

2007(H19)年から
2017(H29)年まで

児童養護施設
若草園

パンフレット
1988(S63)年頃から
2007(H19)年まで

社会福祉法人 栄光会
TEL 0899-33-0247
FAX 0899-33-0247

パンフレット
1988(S63)年頃から
2007(H19)年まで

若草園要覧の内容はインターネットホームページにてご覧になれます(検索⇒下田の若草園)。また希望者には郵送いたします。

一口メモ 還暦と「赤」

若草園 事務 寺田知子

還暦は中国の風習である干支由来の祝いである。古来、日本では中国に倣い、子から始まる十二支と甲から始まる十干を組み合わせて年を表した。最小公倍数である六〇年で暦が一巡りして生年の暦に還るので「還暦」といい、日本では「赤子に還る」から、赤いちゃんちゃんこを着るという風習がある。

赤を用いることには諸説あるが、魔除説が一般的である。中国の歴史書「魏志倭人伝」にも「邪馬台国(中国正史に最初に記載された日本の古代国家)の民は魔除のために顔を赤く塗る」と記されている。中国のお祝いごとでは、還暦に限らず紅包(ハツパオ)という御祝儀が行き交う。赤は結婚式をはじめ、あらゆる祝祭に用いられる。漢朝の祖、劉邦が赤龍の子と言われ、漢朝を五行の「火」と定め赤い旗が象徴だった。二千年後、満州族が支配する時代に漢族庶民は民族の色として赤を好んで使用し始めたのだろう。

若草園誕生の干支は丁酉年。火なので赤と言いたいところだが、丙ならぬ丁なので正式には紫色が象徴であるらしい。色相学上「若草色＝緑」とは正反対であるのが興味深い。

児童養護施設、里親家庭などから自立した方の
相談窓口はこちらです
退所児童等アフターケア事業 **あおば** TEL (090)5912-1785
9:00-17:00 相談員：岡崎

~平成28年度~
苦情解決報告
(平成28年3月4日
~29年2月23日)

相談の顔ぶれは
3ページで紹介
しています。



2月23日午後7時から若草園にて苦情解決
第三者委員会を開催し、寄せられた申し出を中
心に討議しました。

- よせられた件数：1件
- 申し出の方法：園内設置の苦情受付ポストによる
- 内容：別のホームに移動したいと投書。
- 論点：
 - ①手紙で意思を明確にしてきた児童に対して十分な聞き取りや話し合いをする。
 - ②わがままか本心かを見極めつつ受け止め、ていねいに関わる。
- 結論：4月から申し出た児童をホーム移動した。
若草園ではサービス向上のために利用者に耳を傾ける取り組みをしております。苦情以外にもみなさまからのご意見・ご要望がございましたらお気軽にご連絡ください。



編集後記

若草園50周年は園舎建て替え時期と重なりお祝いが叶わなかった。その後、創立55年事業として30周年以来の記念事業を行った。昨年は法人設立20年、今年には若草園満60年とのことで、時節としては好機であったが、法改正や園内の問題解決に追われて取り組めなかった。
▼若草園はキリスト教系の施設である。聖書で60という数字が登場するのは種まきの話。新約聖書・マルコによる福音書には「種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは30倍、あるものは60倍、あるものは100倍にもなった」とある。これは主イエス・キリストがされた例え話で、神の言葉に聞き従う者は、このような祝福にあずかるというお話である。神の言葉とは「殺してはならない、盗んではならない、父母を敬え」という十戒からはじまる基本的な教えである。
▼若草園が100周年に向かって実を結ぶための取り組みは、児童養護の基本を大切に捉えて受け入れ、それを実行することにあるだろう。(せ)